

久斗山地区公民館だより



令和元年
9月号

26日発行

久斗山地区公民館

ご挨拶

夏から秋へ、今年の子節の変り目は、全国的に秋雨前線による豪雨や台風15号による強風により、全国的に大きな災害が発生しました。被災者の方には、心よりお見舞い申し上げます。当地では幸いにも大した被害がなく、田んぼの稲も収穫期となり、週末の度に刈り取られています。秋も少しづつ深まり、読書にスポーツ、そして味覚へと、楽しみが多い季節となりました。今月の地区の出来事を、ここにご紹介いたします。

【秋の夜長、にぎやかに鳴く虫の観察会を開催】

日中はまだ残暑が厳しいですが、夜はすっかり秋の気配が深まっています。夜はお月見、そして夜遊び。

9月14日(土)午後6時より、「こども自然教室 鳴く虫の観察会」(久斗山公民館主催)が開催され、子供6人、大人3人(合計9人)の参加がありました。

開会して、暗くなるまでの時間に公民館内で鳴く虫についてレクチャー、写真と一緒に録音された色々な種類の虫の鳴声を聞きました。この日は、町内の全小学校が運動会ということもあり、少しお疲れ気味の子供たちはぼ～っとしていました。しかし、暗くなって野外観察に出かけると、好奇心旺盛な子供たちの本領を發揮しはじめ、虫の鳴き声をたよりに草むらをライトで照らし、明かりの中に出現する昆虫に大興奮していました。アオマツムシの声がかなりうるさく、遠慮がちに、スズムシやエンマコオロギ、ウマオイなどが鳴いていました。他にオオゴキブリを発見したり、クモや、道路に死んだ蛇の死骸にたかる蟻の大群に注目したり…ふと見上げると、満月が煌々とあたりを照らしていました。

午後8時過ぎには事故もなく、無事に解散となりました。



観察会に参加してくれた大人と子供。好奇心旺盛な面々です。



いつしか空には、中秋の名月が出ていた。



【9月の出来事、あれ・これ・それ】

9月の出来事についてダイジェストでご紹介します。

1日、稲刈り始まる

ヒメノモチやコシヒカリなどの品種の稲が熟れてきました。天候の晴れ間をみて、稲刈り作業が始まり、中旬ごろではほぼ稲刈り作業が終わる見込みです。近年、地区内で耕作放棄田が増えてきており、中山間組合などで保全を行っていますが、野生動物の被害や高齢化などで稲作を辞める農家がさらに増えてきており、深刻な問題となっています。



コンバインでの刈取り、今年は田んぼがすこし寂しかった。

14日、浜坂東小学校運動会

秋晴れのもと、浜坂東小学校の秋季運動会が挙行されました。今年度の全校生は39名で、少ないながらも堂々とした行進で開会となり、みんな元気いっぱい素晴らしい演技を披露してくれました。



秋晴れの空の下、徒競走で力走する生徒たち。

15日、中山間組合の視察研修

久斗山中山間組合の鳥取方面への視察研修が行われました。32名の参加があり、浜根農園でぶどう狩をし、西いなば気楽里などの道の駅で農産物の販売状況を視察しました。

【秋深まり、野生動物の動きが活発化。被害の注意喚起！】

半世紀前は、野生動物が農作物を荒らす被害はほとんどありませんでした。その後、イノシシが水田を荒らすようになり、トタン板で囲ったり、電気柵を設置するようになりました。10年ほど前からシカが増えてきて、今はシカによる食害が大きな脅威となっています。ヌートリアやハクビシンといった、昔は日本に生息していなかった外来種も増えています。これから秋が深まるにつれて、越冬に備えて体脂肪を蓄えるため、活発に食物を漁るようになります。シカは秋に発情期になり、牝を争う牡シカの気性が荒くなり、夜間に道路に出没して人間や車を恐れずに突っ込んでくる場合があります。昔は人間を怖がってひっそりと山で暮らしていた動物ですが、人の生活様式が都市型になって野山に入らなくなったことで、新世代の野生動物は人間を恐れなくなりました。

道路とかでシカや野生動物に出会ったら、大きな声で怒鳴って、人間の怖さをアピールしましょう。余った野菜を放置しておく、野生動物の餌となります。土に埋めるなどして処理し、柵で畑などへの侵入をしっかりガードしましょう。捕獲して駆除しないと、増えた野生動物は減ることはありません。



夜、林の中でこちらを睨みつける大きなオスのシカ



罠に捕まったハクビシン



囲い罠の中に入ったイノシシ

○ 10月の行事

- 1日(火) 大杉神社 秋の祭礼
- 14日(月) 久斗山・境合同運動会(午前9:00~11:00 おおすぎの広場)
- 14日(月) 久斗山・境ふれあい交流会(午前11:00~午後2:00.おおすぎの広場)
- 19日(土) 子ども自然教室「芋ほり体験」(午前9:00~11:00 久斗山地区公民館)



第15回新温泉町文化祭浜坂会場
出品・出演者募集
テーマ「ゆとりと潤い・文化創造の町」
 平成元年最初となる新温泉町文化祭に
 出展する作品及び舞台発表を募集します。
 ○作品展:10月31日(水)~11月3日(日)
 ・申し込み:10月11日(金)までに提出
 絵画の部・・・油絵、水彩、スケッチなど
 詩歌の部・・・作品は色紙、短冊で
 書の部・・・額装、表装したもの。
 写真の部・・・大きさは四つ切以上
 その他
 ●舞台発表:11月4日(月・文化の日)
 ・申し込み:10月11日までに
 謡曲、舞踊、詩吟、楽器演奏など
【問い合わせ・申込み】
 浜坂公民館 TEL0796-82-4339



5列した1cmほどの薄いピンク色の花が咲く。

今月の野草
ミゾカクシ

稲刈りの終わった田んぼの畔に、変わった形の小さな花がびっしりと咲いていました。溝を隠すほど生えるところからこの名前があり、別名、畔むしろとも言われます。水田雑草の高さは十センチほど。水田雑草として稲作の行われる地域で広く見られます。



サンコウチョウ
(写真:高橋信)

かつてに昔話
三光鳥の恩返し(第三話)
作、いっこう

山葵を採りに山奥に入った九兵衛さんは、濃い霧に包まれ、帰る道がわからなくなってしまう。「もう少ししたら夜になるし、こりゃあ困ったな・・・」途方にくれて、立ち止まったまましばらくした時です。「九兵衛爺、来い、来い、来い」霧の中で自分を呼ぶ声が聞こえてきました。最初は空耳かと思った九兵衛さんですが、しばらくすると、また同じ声が続けて聞こえてきました。

九兵衛さんはやがて、その声に誘われるように、声のほうに歩いていきました。霧は濃く、夕闇の迫る中、九兵衛さんは自分を呼ぶ声だけを頼りに、どのくらい歩いたでしょうか？ふと気がつくといつの間にか周囲の霧は晴れ、良く知った村はずれの広い路に出ています。これで九兵衛さんは無事に家に帰ることができました。その時でした、目の前を一羽の尾っぽの長い青い鳥がヒラリと飛んで、キューページィ、ホイ、ホイ、ホイと鳴きました。九兵衛さんは鳥の姿を見て、はっと思いあたりました。その鳥は、少し前に自分が蛇から巣を守ってやった鳥だったんです。

「そうか、あの時の鳥が道案内してくれたんだな、ありがとよ」九兵衛さんは、飛び去った鳥に、そうお礼を言いました。

(おわり)